

## 巻 頭 言

### 神戸学術総会の延期をめぐる

小島卓也 日本精神神経学会理事長  
Takuya Kojima

平成21年日本精神神経学会学術総会は神戸の新型インフルエンザ発症の影響で当初の予定の5月22～24日開催から8月21～23日開催に延期となった。5月14日に感染者が発見され、日増しに感染者の数が増加していく中で、5000人規模の学会を開催した場合、その後参加者が各地域に戻って感染が拡大することを最も恐れた。前田潔会長と相談し、理事会で検討した結果、神戸の状況から5月の開催は困難と判断し中止とした。5月17日(日)夕方に決定し、ホームページへ掲載、関連団体、七者懇談会への通知を行い、5月18日(月)には学会事務局員、神戸の大会事務局員とアルバイトの人たち総出で会員へのお知らせを速達郵便で発送した。開会日が迫っていたので徹夜の作業であった。5月21日(木)神戸で開催予定であった理事会を東京の事務局で開催し、前田潔大会長に来て頂き今後について検討した。国際会議場を中心にした会場で8月21～23日に延期開催可能であることがわかり、決定した。中止から延期開催の決定まで5日間できたことは幸運であった。これについては前田潔会長のご尽力は勿論であるが、神戸市長のご協力が大きいことがわかった。

次に今年は新評議員による新理事の選挙があり新執行部を発足させる年である。5月の開催延期で8月まで旧理事会が担当することは、様々な緊急な出来事に適切に対応できないことも考えられる。そこで8月の学術総会を待たずに、できるだけ早く評議員会を開催、新理事選挙を行い、新理事長を選出し、新執行部を発足させることが必要であると考えた。定款によれば新理事会が活動できるためには通常総会の承認が必要である。山内俊雄、山口成良両監事が早期の評議員会及び通常

総会を開催すべきという見解を発表され、理事会はそれに従った。開催日の決定と会場の選定が難しかった。会員が集まりやすい日曜日開催は当然として、6月～7月初めの日曜日で精神科関連の学会開催がない日が適当である。この規準で調べた範囲では、6月21日(日)のみが1学会と重なり、他の日は複数の学会等が重なっていた。その学会は精神神経科診療所協会の年次総会であり、幕張メッセで開催される。もし別な場所で評議員会、通常総会を開催すれば、その学会の会員、その学会に出席予定の当学会関係者に不利益になると考えられた。そこで公平性の観点から、幕張メッセで評議員会、通常総会を開催することが最適であると判断し、三野進診療所協会会長、志津雄一郎日精診総会会長にお願いしたところ協力して頂けることになった。両会長に感謝したい。後でわかったことであったが、当日北陸精神医学会が開催されるということであった。申し訳なく思っている。

当学会は会員14000人規模の学会になり、専門医制度が軌道に乗り、関連学会との連携が密になり、精神科の親学会としての役割が求められている。厚生労働省や文部科学省などの行政との意見交換も積極的に行われるようになってきた。精神科および精神科領域の発展のために努力を傾注する重要な時期である。今学会にとって最も大切なことは、学術総会の延期開催とともに、早急に新執行部を構築し、処理しなければならない問題、緊急を要する問題に積極的、適切に対応できるようにすることであると考えた。今回理事長並びに理事会が選んだ緊急的な対応について会員諸氏のご理解を賜りたい。